

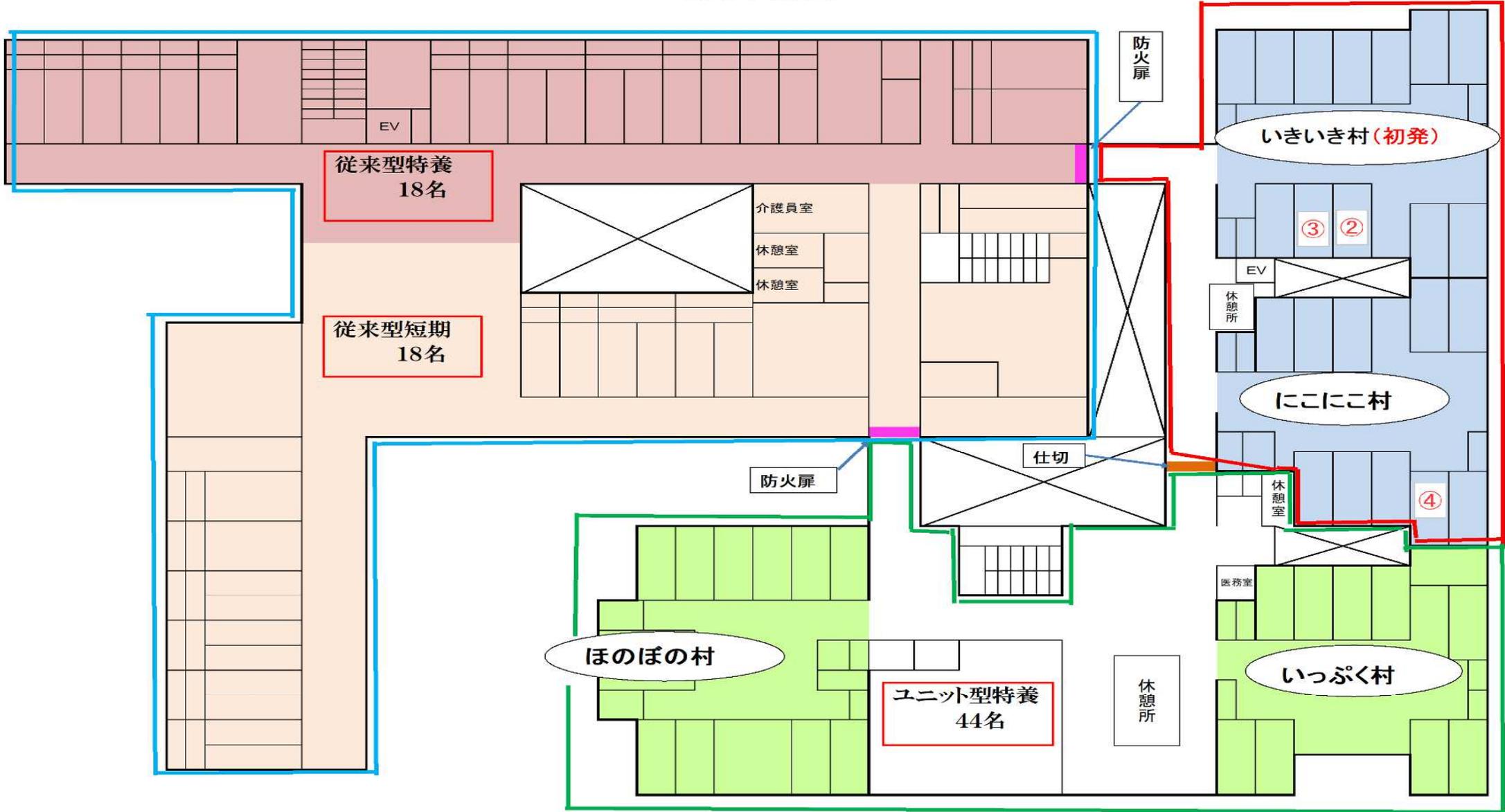


感染症対応を振り返って

特別養護老人ホームあかね園

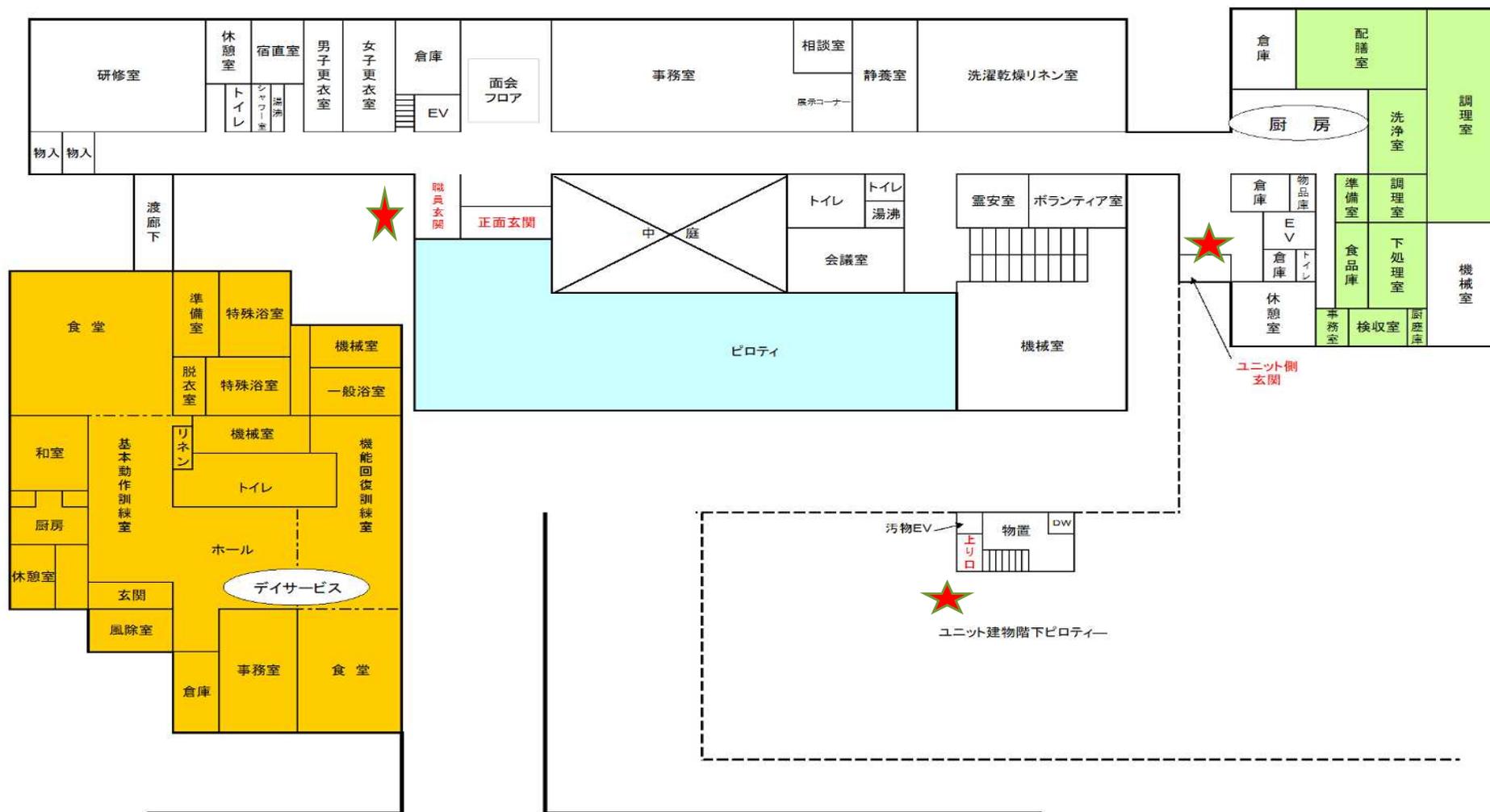
2階平面図

2021/9/29現在



1 階 平面図

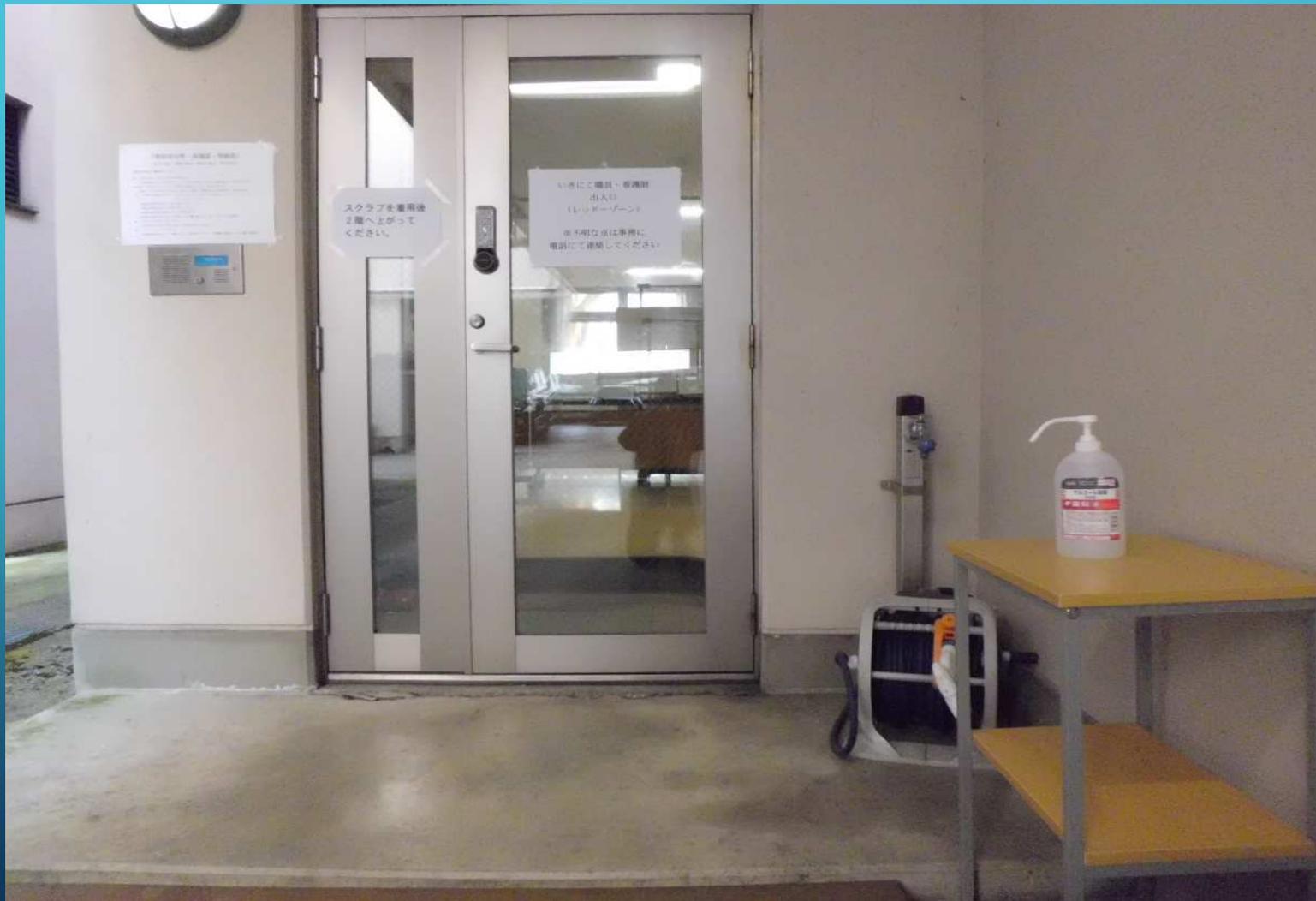
2021/8/2現在



特別養護老人ホームあかね園 新型コロナウイルス感染状況

日	月	火	水	木	金	土
3月/28	29	30	31	4月/1	2	3
		①いきいき介護職員A ゾーニング開始 通所、短期利用者帰宅	支援チーム説明会	レッドゾーン職員自宅 待機 支援チーム支援開始	②いきいき入居者B レッドゾーンN95開始	③いきいき入居者C 助言受けゾーン縮小 施設グループライン作成
		行政検査(1回目)	行政検査(1回目) 法人検査(1回目)			
4	5	6	7	8	9	10
④にこにこ入居者D ⑤いきいき支援職員E	⑥いきいき支援職員F レッド自宅待機者一部 復帰 ユニット毎夜勤者配置	⑦にこにこ支援職員G	関係者指導来園 (CHAIN)	ユニット炊飯止め弁当 形式の食事提供	法人メンタル窓口開設	
行政検査(2回目)	行政検査(職員家族) 法人検査(2回目)	行政検査(職員家族)	レッドゾーン行政検査 (3回目)	隣接ユニット行政検査 (3回目) 法人検査(3回目)		
11	12	13	14	15	16	17
				解除日の相談	⑧看護職員H	
			レッドゾーン行政検査 (4回目)	隣接ユニット行政検査 (4回目) 法人検査(4回目)		
18	19	20	21	22	23	24
						宿泊職員説明会
	地域密着型行政検査 (5回目)	レッドゾーン行政検査 (5回目)	隣接ユニット行政検査 (5回目)			
25	26	27	28	29	30	5月1日
宿泊職員説明会	通所一部再開				解除日	通所通常営業 短期営業再開
		法人検査(5回目) (レッドゾーン職員)				

レッドゾーン 職員玄関





アンダーウェア
男M 5枚

アンダーウェア
男L 15枚

ⓔ
M 5枚

スワット
パンツ
M
5枚

ⓧ
L
15枚

スワット
パンツ
L
15枚



レッドゾーン ユニット





レッドゾーン隣接 廊下



レッドゾーンエリア 休憩場所



レッドゾーン・グリーンゾーンエリアの仕切り



グリーン
ゾーン
休憩場所



2021 04 11

グリーンゾーンとクリーンゾーンとの仕切り



レッドゾーン
グリーンゾーン
スクラブ着用



ダイサービス様子(感染症を機に変更)









ご利用者 弁当形式食事(昼食時はデザートがプラス)



PCR検査(正面玄関前)



振り返り、学び、課題

- レッドゾーン、グリーンゾーン、その他の職員玄関を分けたのは有効。
- 通所等からの支援看護職員が慣れるまでは、レッドゾーン支援の看護職員がクリーンゾーン等にも入らざるを得なかった。
- 使い捨ての弁当形式は感染症対応、負担軽減も含めて適切であった。
- 慣れない支援チーム、感染症対応などの理由により、日が経つにつれて、利用者の水分不足が課題となった。食事からできるだけ摂れるように栄養士が献立を変更して対応した。

○初期の頃、レッドゾーンの休憩場所で職員が距離を十分取らなかったり、マスクを外したまま大声で会話したことがあった。改

○しばらくして、日中の人員増や1ユニット1名の夜勤者が確保されたため、ユニット間の行き来をしなくてよくなった。

○初動時、レッドゾーンへ入った職員へのPPE着脱指導が遅れてしまった。平時における定期的講習が非常に重要と感じた。改

○ごみを廊下に置くため、不衛生に感じ、レッドの休憩場所にも臭いが来た。72時間立たないと下に下ろせないと思っていた。

○在宅サービス利用者はCM等が、他事業所への振り替えや代替サービスの調整を担当。法人内外とも理解協力を示してくれた。

○連絡・共有にグループラインの活用が非常に効果的であった。使用できない職員の伝達方法を決めておく必要あり。

○特にレッドゾーンでは不用意に顔を触ったり、マスクを直したり、水分摂取をしない、ゾーンを出る際のPPEの正しい脱着やたっぷりの手指消毒など、職員個々が徹底することが、予防や拡散防止に非常に重要であることが判明した。

○発熱等症状がなければ感染後2週間後を目安で復職をしてもらった。

○入院や市外宿泊施設への滞在期間は10日間で発熱等なければ退院、退所となる。また、感染後の復職の場合、再度のPCR検査はウイルスの残骸等が反応するため意味がないことを知った。

○感染者をけっして疎外しない！！

誰もが感染する可能性がある！感染した人が一番苦しい！

一定期間の経過で感染力は喪失、自分がその人の立場であれば・・

法人、施設として職員に安心の説明や絶対誹謗中傷しないことをラインその他で何度か周知を徹底。そのせいか、目立った誹謗や中傷は耳に入りませんでした。

○PCR検査を法人でもこまめに実施してくれて安心につながった。職員だけでなく、職員家族も安心だった。職員アンケート

○法人支援が大きかった(ホテル確保、弁当提供、時系列の記録担当、宿直支援、PCR検査支援、物品搬入、家族連絡支援その他)

○感染症消耗品、ホテル宿泊費、法人自主検査費用の助成について、後ほど関係機関に補助申請を行った。

○振り返ると、職員すべてが精一杯力を尽くしてくれました。感染対応を通じて施設内の多事業所間のまとまり意識が増した。

最後に

- ・外出や外飲食時などの感染症予防の対応や意識。
- ・仕事の際の3密を意識した環境やスタンダードプリコーションの徹底。
- ・体調管理や不調時の申し出など、とにかく日頃の意識と行動の継続がとても大切。

時間とともにおざなりになってしまいがちの中で、最低限の基本事項を日頃きちんと続けていくこと、これこそがいざという時に拡大するかどうかの分かれ目。

医療や保険、福祉の仕事をする同じ仲間として、つまりの地に住む市民として、コロナの感染脅威に対して、共に共有を図り、理解しあい、手を取り合っていくことが必要と考えます。

今後ともよろしく申し上げます。



以上で終わります。

ありがとうございました。